



4年  
花澤 勇太くん



『南の島に  
ぼくがいた』

※この絵は、ぼくが宝を発見した時の絵です。色を作るのがむずかしかったです。



『たいよう』



1年  
あおやぎ 青柳 瑞希さん

※入学して初めての絵です。太陽の日射しの部分が大きく描けました。

あつまれ みんなの力作



『大造じいさんと  
がん』



5年  
川島 祐希くん

※鳥の羽を一枚一枚書くのと、バックの色を出すのがむずかしかったです。



2年  
郡司 真緒さん

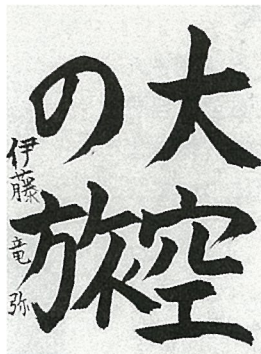


『はみがきする  
友だち』

※はみがきをする友だちをかきました。手をかくのがとても大へんでした。



6年  
伊藤 竜弥くん



伊藤 竜弥

※旅の大きさが、形がむずかしかったです。字のバランスや大きさはよくできましたと思う。



『さくらとかたつむり』



3年  
石井あかねさん

※かさがいっばいできた。むずかしかったところは、色をぬるところです。



ひかり俳壇



大木 素風 (二又)  
ヘルメット凛々し五月の新教師

敢て言えば季重りであるが、新教師としての自負と心意気が爽やかに詠まれている

大木 静水 (篠本)  
風五月苗の囁き運び来る

田植を待つばかりとなり、風に戦ぐ苗代の苗の情景を囁きと看た感性が詩情を深めた

小柳 孝之 (尾垂)  
五月来や癒えたる妻の声澄めり

快復した妻の、明るく澄んだ声に心も安まり、綾なす初夏の風光に浸る一時の感懐

布施 和代 (二又)  
竿先に銀鱗踊る風五月

秋山 一泉 (栢田)  
五月来て八十路の夢をふくらます

伊藤 定男 (尾垂)  
鯉のぼりこの家に後継ぎ授かりし

川島 孝夫 (二又)  
年金をおろし端午の節句待ち

土屋 義昭 (虫生)  
五月来る旅の予定を書き加え

短評  
椎名しげる  
評者吟 みどり児の弾ける四肢や聖五月